

KANEKA

平成21年3月期
第3四半期決算概要

株式会社 カネカ

1. 業績概要 (平成21年3月期 第3四半期決算短信 P. 1参照)

(単位：億円)

	前期 (4-12月)	当期 (4-12月)	対前期		今回修正 通期予想
			増減額	伸び率	
売上高	3,814	3,600	△214	△5.6%	4,530
営業利益	295	115	△180	△61.0%	80
経常利益	293	101	△192	△65.4%	52
純利益	170	36	△134	△79.0%	△35

- ◎ 売上高は前年同期に比して、△214億円、△5.6%の減収、営業利益は前年同期比△180億円、△61.0%、経常利益は△192億円、△65.4%、純利益は△134億円、△79.0%と、それぞれ減益となった。
- ◎ 特別損失として投資有価証券評価損△25.5億円、事業整理損△6.4億円を計上している。(平成21年3月期 第3四半期決算短信 P. 10参照)

2. 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成21年3月期 第3四半期決算短信 P. 12、P. 16参照)

(単位：億円)

	売上高			営業利益		
	前期 (4-12月)	当期 (4-12月)	増減額	前期 (4-12月)	当期 (4-12月)	増減額
化成品	766	734	△31	42	8	△34
機能性樹脂	639	556	△83	96	38	△59
発泡樹脂製品	568	561	△7	4	8	+5
食品	891	950	+58	20	22	+2
ライフサイエンス	262	315	+53	40	53	+14
エレクトロニクス	449	299	△150	78	13	△64
合成繊維、その他	239	185	△54	55	20	△35
消去・全社費用	—	—	—	△39	△47	△9
計	3,814	3,600	△214	295	115	△180

- ◎ 売上高は食品、ライフサイエンスが増収で、それ以外の5セグメントは減収。営業利益では発泡樹脂製品、食品、ライフサイエンスが増益、それ以外の4セグメントは減益

- ◎ 為替は対ユーロ、対米ドルとも前年同期と比較して円高となっており、売上高で△118億円、営業利益で△25億円の影響となった。原燃料価格高騰は、石化原料関連で△103億円（受入ベース）、食品関係を含めると△150億円（受入ベース）の影響である。
- ◎ 事業セグメント別の状況は以下の通り。
 - ・ 化成品：塩化ビニール樹脂は、国内需要の低迷に加え、輸出市場の需要が大きく落ち込み販売数量は減少。加えて原料価格高騰の影響もあり、減益。塩ビ系特殊樹脂も、国内需要の低迷や米国・アジアでの需要減退の影響を大きく受け、減益。か性ソーダは、需給が締まり、総じて堅調に推移。セグメント全体では減収減益。
 - ・ 機能性樹脂：モディファイヤーについては、米国の住宅向け販売の不振、日本を含む極東・アジア市場の需要減少に加え、欧州での需要も急速に冷え込んだことから、減収減益。変成シリコンポリマーについても、日米欧での需要が減少し、減収減益。セグメント全体では減収減益。
 - ・ 発泡樹脂製品：徹底したコストダウンに取り組んだ結果、発泡スチレン樹脂、押出発泡ポリスチレンボードの収益は向上したが、ビーズ法発泡ポリオレフィンについては、自動車、家電製品の急激な生産ダウンの影響を受け、減収減益。セグメント全体では減収増益となり、黒字に転換。
 - ・ 食品：大幅な原料価格高騰の影響を受けている。新製品の拡販に注力し、増収、採算も、コスト低減を進め、若干改善。
 - ・ ライフサイエンス：医療機器はインターベンション事業の販売が順調に推移し、増収増益。医薬バルク・中間体も堅調な販売により、増収増益。機能性食品素材は、高機能品の販売が増加し、採算が改善した。セグメント全体は増収増益。
 - ・ エレクトロニクス：エレクトロニクス製品の需要が急速に悪化し、超耐熱性ポリイミドフィルムや液晶関連製品の販売数量が大幅に減少し、減収減益。太陽電池は欧州を中心に引き続き需要が堅調であり、輸出が好調に推移したが、円高の影響を受け、採算は悪化。セグメント全体は減収で、大幅な減益。
 - ・ 合成繊維、その他：合成繊維は、海外需要が減少したうえ円高の影響が加わり、減収減益。セグメント全体では、減収で、大幅な減益。

3. 単独／連結子会社別売上高・営業利益の状況

(単位：億円)

	売上高			営業利益		
	前期 (4-12月)	当期 (4-12月)	増減額	前期 (4-12月)	当期 (4-12月)	増減額
単独	2,387	2,211	△176	216	63	△153
国内子会社	1,875	1,972	+97	41	40	△1
海外子会社	798	713	△85	57	30	△27

- ◎ 国内子会社では、合成樹脂加工関連の会社のうち昭和化成は好調であるが、龍田化学などが減益。
- ◎ 海外子会社では欧州の景気減速拡大の影響を受け、カネカベルギーが減収に転じ、減益幅も拡大。カネカテキサスも引き続き低調。

4. 海外売上高の状況 (平成21年3月期 第3四半期決算短信 P. 13、P. 16参照)

(単位：億円) (参考)

	前期 (4-12月)	当期 (4-12月)	増減額	伸び率	前期 通期
アジア	596	432	△163	△27.4%	779
北米	276	259	△16	△5.9%	365
欧州	431	397	△34	△7.8%	568
その他	119	132	+13	+11.2%	160
海外売上高計 (海外売上高比率)	1,421 (37.3%)	1,221 (33.9%)	△200	△14.1%	1,872 (37.2%)

- ◎ 輸出、海外子会社の売上高とも減少。為替が円高になったうえ、北米、アジアでの売上高が引き続き低調で、欧州での売上高も減少した。この結果、海外売上高は前年比△200億円減少(内、為替の影響△118億円)、海外売上高比率は前年同期37.3%、前期37.2%に対して33.9%へ低下した。

5. 通期決算の見通し (平成21年3月期 第3四半期決算短信 P. 1、P. 5参照)

(単位：億円)

	前期		当期		対前年(通期)		従来 通期 予想
	(4-12月)	通期	(4-12月)	通期 予想	増減額	伸び率	
売上高	3,814	5,030	3,600	4,530	△500	△9.9%	5,070
営業利益	295	357	115	80	△277	△77.6%	240
経常利益	293	339	101	52	△287	△84.6%	230
純利益	170	188	36	△35	△223	—	125

- ◎ 下期以降は想定以上に全世界的に需要が減退し販売数量が減少、第4四半期においても引き続き需要は世界的に停滞したままであり、今期中の大幅な損益の改善も見込みづらいことから、通期業績予想を上記の通りに修正することとした。

以 上